

竹田は大和國十市郡にも有り、萬葉集第四に、坂上郎女從竹田庄贈女子歌あり、是はまさしく大和なり、また日本紀第三に猛田と書しを、舊事紀には建栢とも書り、又延喜式神名帳に、大和國十市郡に竹田神社あり、是等の類はまさしく大和なれども、又後世の歌によみしは、たゞ山城國紀伊郡の竹田なり、芹川淀等をよみ合せしにて知べし、

〔山州名跡志十一紀伊郡〕竹田 在城南宮グク森良亘卯辰一町許、此所洛陽東洞院通、南順路也、竹田今ハ所ノ名トス、如舊記竹田ハ庄號ニシテ、竹田庄ト云フ、或云眞竹庄、分村云東竹田、西竹田、中間一町餘、

〔山州名跡志十六久世郡〕巨椋或作小倉 在宇治乾三十町許、有民居名村、此所伏見ヨリ到ル順路ハ豊

後橋ノ南、大和路ニテ、橋ヨリ五十町ニアリ、其路左ニ宇治川アリ、右ニ伏見澤アリ、右此五十町ノ所、秀吉公ノ時所築ノ堤ナリ、古ノ大和路ハ、巨椋ヨリ寅卯ノ間ニ向ツテ宇治橋ニ出テ、木幡ノ關ニ趣キシ也、○中略

久世所名清音 在大久保巳午間、其間十町許、但大和街道ハ於久世東ノ端ニシテ南北五町許ヲ云フ、其南ハ寺田村ニ雙ブ、但久世村ノ民居ハ大和街道ノ西ニアリ、

〔類聚名物考地理三〕綴喜里。つゞきのさと 山城國綴喜郡 宮 郡 岡 原
今は連續の訓の如く、下のつを濁りてとなふるを、上古は清てとなへしにや、日本紀には筒城と書れしにて知べし、その類古今の違ひ、まゝ、その例多し、物によりてその心得有るべし、

〔山州名跡志六愛宕郡〕花園村名 在小野橋北十二三町、花園ノ名ハ古左大臣夏野公ノ別莊ニヨルナリ、其地初ハ今ノ妙心寺ノ地是也、彼人於其所諸花ヲ愛セルヲ以、花園左大臣ト稱ス、然ヲ人皇九十四代ノ帝、彼地ヲ好取玉ヒテ、其裔孫良枝ニ今此地ヲ賜ル、仍テ彼別莊ヲ此地ニ移、故ニ此號アリ、上皇又彼地ニテ群花ヲ愛シ玉フ故、上皇ノ御稱號ヲ花園院トモ、又萩原院トモ申也、